

第10回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成24年2月10日(金) 18:30~20:30
場所	すこやかプラザ 多目的ホール
出席委員	赤井委員、稲垣委員、加藤委員、川中委員、川向委員、佐竹委員、澤木委員、高濱委員、辻委員、土谷委員、濱名委員、林委員、久委員、弘本委員、藤池委員、丸岡委員、安田委員、山本(正)委員、義村委員、渡辺委員
欠席委員	赤澤委員、北村委員、塩見委員、白石委員、高岡委員、中村委員、長村委員、東田委員、山本(起)委員、吉田委員
事務局	辻本協働企画課長、中川政策担当課長、安川行財政構造改革担当課長、塚本行財政改革室長、吹野企画財政局長、蟻岡政策室長、奥平計画担当課長、計画担当

開会

委員出欠報告、配布資料確認(事務局)

会議録署名委員の指名(会長より名簿順に2名を指名)

(資料確認)

1. 尼崎市総合計画(案)について

会長

本日は、まず、「新たな総合計画の全体像」について、前回の総会等の意見を踏まえた修正内容の確認を行ったうえで、その後、新たな総合計画を表す「都市像」について審議していきたいと思う。

それでは、次第1「尼崎市総合計画(案)について」を事務局より説明願いたい。

事務局

まず、簡単に経過を報告したいと思う。前回、12月27日に審議会総会を開催し、年の明けた1月22日~24日にかけて各分科会の最終回を開催いただいた。それぞれ、総論と各論を審議いただき、その過程を経て、今回、構想から計画、資料編までをまとめた全体像を示した。

本日は、大きく2点のご意見をいただきたいと思っている。1点目は、総合計画(案)について、もう1点は都市像についてである。

今後の予定であるが、本日の日中に議会の特別委員会を開催し、本日提出している案に対する意見をいただいた。また、来週の2月17日から3月9日にかけて、パブリックコメントを行い、その後、本日いただくご意見も含め、年度内を目途に修正作業をする予定である。審議会の総会自体については、年度末から新年度4月にかけて開催する方向で日程調整をしている。

それでは、資料説明に移りたいと思う。

(資料1説明)

(資料2説明)

会長

特別委員会においてはどのような意見が出されたのか。

事務局

特別委員会の意見は資料3を見ていただきたい。

(資料3説明)

会長

前回の皆さまからのご指摘と議会の特別委員会の意見を踏まえた修正になっている。特に、修正箇所は皆さまからの意見を踏まえて、ということになっているが、新たにどこがお気づきの点があればご発言いただきたいと思う。

委員

個別の細かい話になるが、39ページにある「人権文化」というのは、一つの言葉なのか。それとも、「人権・文化」なのか。

47ページの施策の展開方向の3の表現についてだが、「適正運営と自立支援の取組を進めます」とあるが、今、適正運営が進んでいないかのようだ。自立支援はわかるが、「適正運営」は表現上どうなのか。

49ページのタイトルに「支えあうまち」とあるが、国民健康保険そのものは社会保障である。国民健康保険は、全国的には自営業者の方や年金生活の方が多いが、尼崎の国民健康保険加入者で一番多いのは、働いている方である。これはなぜかと言えば、働いている企業に健康保険組合がないか、あるいは、派遣などで国民健康保険に入らざるを得ない方が多いため、この比率が一番高い。ここが他都市とは違う点である。例えば、施策の展開方向の1つめに「支えあいで健康な生活を保障する」とあるが、これは「支えあい」をとって「健康な生活を保障する国民健康保険制度や国民年金制度等の適切な維持・運営に努めます」で意味は通じる。わざわざ「支えあい」を用いる必要はないのではないか。

55ページの施策を考える背景に、消費センターで扱うようなことが書かれているが、尼崎の場合は多重債務が問題である。法律が改正され、前のようにはいかなくなった面はあるが、兵庫県の但馬でこのような取組をされている方に話をお伺いしたところ、逆に問題が潜在化する危険性がある。多重債務の発見のきっかけとなるのは、国民健康保険や市民税、保育料の滞納などがあり、行政の窓口であることが多いとのこと。先日あったシンポジウムで「そういう行政の役割が大きくなる」と言っていた。そういった記載が取組に一言もないのは、尼崎の場合、都合が悪いのではないか。

59・60ページ「地域経済の活性化によるにぎわいのまち」とあるが、市長の公約そのものも、「地域民間型の経済をつくりたい」とある。その点で見れば、各主体の取組の で、市民・事業者には、「地域経済の循環を心がけ...」とあるが、「行政が何をするのか」という表現はない。行政として出来ることに何があるかはわからないが、もう少しここは補強してはどうかと思う。

会長

いただいたご意見は事務局にて整理・検討いただきたいと思うが、質問としてあった人権の表現について、事務局としてはいかがか。

事務局

人権の分野別計画のサブタイトルとして、人権文化といった表現を使っており、市としてはオーソライズされた表現である。それ以外については、どこの分科会にも入っていたいて議論を進めてきたため、別途、個別に説明したいと思う。必要があれば、分科会長とも調整をしたいと思う。

委員

55・56 ページ施策 13【生活安全】について、犯罪被害に遭われた方々のことについて抜けているのではないか。尼崎は犯罪件数が高いと聞いているが、秋葉原の事件では、犯人が車でひいた被害者に関しては、車の保険がおり補償されたそうだが、被告に刺された人は、被告人に支払い能力がないため、その人達の生活の支援が全くないということが起きている。犯罪被害に遭われた方は尼崎にもいて、加害者が被害者に支払い能力がなく泣き寝入りしている状態で、生活保護も受けることができず、大変な状況がある。刑期を終えると加害者は出てくるため、その不安とも闘っている。そういう人たちにも、安心を実感してもらえるようなまちにしなければならない。国の制度も遅れているが、尼崎市としてどうするのか、ということも考えていかなければならないのではないか。

会長

国全体の制度との関係もある。

委員

1～20 まである施策の順番についてだが、例えば、学校教育は後ろの方だったと思うが、今回は施策 03 で前にきている。この順番はこれで確定なのか。

事務局

以前の施策体系は市の組織順に並べていた。現在の案では、関連する施策が並ぶように修正している。この順番は、4つのありたいまちがあり、特にその1つめのありたいまち「人が育ち、互いに支えあうまち」に資する部分を前に、次に2に資するものに、と言う順番で並べている。施策としても関連が深く、連携すべき部分をより近くに並べるという意図をもって整理した。

委員

考え方は了解した。並び順で前の方が、市の行政の取り組むウェイトが強いのかなという印象を持つため、できれば、施策 04 の子どもを1番にもってきてもらえたらと思う。

53 ページ施策 12【消防・防災】について、「消防・防災体制が充実したまち」で終わってしまっているが、その下に書かれている通り、阪神淡路大震災を経験し、東日本大震災があった中で、やはり防災の意識はかなり高まっていると思う。このヘッドラインのタイトルは、表現が貧弱ではないだろうか。「消防・防災体制が充実した安心のまち」であるとか、安心・安全というのは、その後の都市基盤の施策で使っているフレーズではあるが、「充実した安心のまち」というニュアンスがあったほうがよいのではないかと思う。

69 ページ施策 20【都市基盤】の写真についてだが、アンダーパスを掘っている写真なの

だろうが、我々が但し書きをみても「工事現場なんだろうな」と分かる程度であるため、このままの写真では、都市基盤をアピールする写真としてはわかりにくいのではないか。

事務局

1つめにご意見をいただいた順番についてだが、順番で優劣はつけていない。並びとしては、先ほど説明した形で考えている。力を入れなければならないところは「主要取組」で明確にしている。そういった視点でご覧いただければと思う。

委員

指標について、いくつか確認したいことがある。まず、34ページの施策02の指標についてだが、公民館の利用者数は、本館と分館の両方になるのか。

例示ということで聞いていただきたいのだが、例えば、48ページ施策09の指標が「生活保護受給者就労支援事業における就労開始件数」とあるが、そもそも生活保護受給者が増える可能性があるもの、母数が増える可能性があるものに関しては、実数ではなく率で捉えた方がよいのではないか。内容によっては、率に変えた方がよいのではないかと思う。

58ページ施策14【就労支援】の指標にある「雇用・就労相談の件数」について、この間の分科会で議論になったと思うが、説明の2つめに、「相談件数の増加を目指す」と書いているが、説明がわかりにくい。目的が就労支援なのであれば、「就労支援」あるいは「就労」「就労率」といったところで、よりわかりやすい指標にするべきではないか。

60ページ施策15【地域経済の活性化】の指標について、これも分科会で議論したところであるが、もともとは、市内の企業立地の件数と市内の小売業の売上額と市民意識調査の3本立てになっていた。それが今は、工業統計の出荷額のみが変わっているが、何か理由があるのか。また、地域経済の活性化ということ言うと、工業という言い方がいいのかわからないが、事業所であるとか、工業出荷額みたいなところと、もう一つは市内の商業に繋がる指標があった方がいいのではないかと思う。

最後は、指標とは違うが6.行政運営について、1つだけ意見を言わせていただきたい。最後の段落部分は良いと思うが、今後、行政の課題として挙がってくると思われる人事制度や様々な諸制度に関して、「組織の見直しを行います」との表現だけでは不十分である。制度という表現も検討いただけないだろうか。

会長

委員に重要なポイントをご指摘いただいたが、やりとりをしていると時間がかかるため、事務局で受けていただき、修正・検討していただくことにしたい。

委員

施策14の58ページと、施策15の60ページには、「分野別計画等」が無いが、分野別計画が無いということなのか。

施策15の60ページ、行政の取組の3つめに「尼崎はグリーンニューディール政を進めていきます」と書かれているが、「環境と産業を繋ぐために、尼崎はグリーンニューディールを進める」と聞いているが、施策18のどこにもグリーンニューディールの話が出てこない。やはり、経済の活性化という意味での、環境と企業を繋いでいくというのがメインになるかもしれないが、環境という側からみたグリーンニューディールの方向性が環境にあ

ってもよいのではないか。

会長

後者については、表現をご検討いただきたい。「分野別計画等」がない理由について、事務局より回答をお願いします。

事務局

関係する計画が無いので記載されていない。グリーンニューディールに関しては、環境施策にリンクを張る形で対応している。一方で、施策 18 にも、「環境に配慮した企業活動を支援する」と記載している。

委員

45・46 ページ施策 08【障害者支援】について、行政の役割に「社会参加の促進」と書いてあるが、参画の支援を積極的に言うべきではないか。特に、当事者が関係する分野については、そういったものが促進されるということは、行政の役割に追加してはどうかと思うので、ご検討いただければと思う。

47・48 ページの施策 09【生活支援】について、分科会の中でも再三いろいろな議論があり、その検討の結果、書かれなかったことだとは思いますが、生活に課題を抱えている世帯の子どもが、経済的な格差が理由で経験格差が起きないように支援やしきみづくりに関する検討の必要性は、いろいろな分野から指摘されていることであるため、もう一度ご検討いただきたい。

委員

31・32 ページ施策 01【地域コミュニティ】について、こちらの分科会には入っていなかったが、最初のころから非常に気になっていた。現状のことは書かれているが、今後どうするのか、という話になったときに、社協の加入率の推移は書かれているが、現実を見てもそうであるが、グラフを見ても右肩上がりに上げていくのは厳しいと思う。「指標の冒頭に加入率を」ということで、掲載されている。取組は確かに必要であるが、現実には厳しいものがあると思う。では、どうすれば住民自治、コミュニティが形成されるのかというところで、行政の取組の1つめに「住民自治のルールについて、協議する場を作ります」とある。ここでいろいろなことが展開されていくとは思いますが、一步踏みこんで、具体的なモデルとして取組の例などを書いてもよいのではないかと思った。難しい部分もあると思うが、現実、私は、社協の方々にはお世話になっているが、これを増やすというのは、あちこちで「あそこが脱会した、辞めた」とよく聞くため、非常に厳しいものがあると思う。今更難しいかもしれないが、加入率の高いところはそれをキープしていただいて、低い地域は具体的にどうやっていくのかを入れてもらえればよいのかなと思った。非常に重要な財政再建、財政基盤と住民自治基盤は本市の課題の1つであるため、議会の方でも財政の問題は挙がるが、住民自治となるとバランスがどうかという感じもある。

会長

他のところも含めて、どこまで具体的に踏み込むのかといった問題はなかなか難しい。

委員

施策 19【住環境】の 68 ページの指標 2 つめについて、子育てファミリー世帯に適した良質な住宅の面積の指標として、「3人世帯の誘導居住面積水準を用いています」となっているが、この3人世帯の意味が私にはわからない。おそらく、両親と子どもだろうと思う。そうだとすると、これを標準にすると、人口減少に歯止めがかからないのではないかと。それから、もう一つ言えることは、私の近所に7時30分から8時にかけて、自転車の前と後ろに子どもを乗せた若いお母さんがたくさん走っている。中には、後ろに2人乗せている人もいる。そういったことから、この「3人世帯」という考え方は難しいのではないかと思う。逆に言うと、これを読むと、親2人に子1人でいいのか、一人増えたらどうするの、ということになる。ここはもう一度検討していただきたい。

24 ページの1.策定の趣旨に、網かけされている「の実現」がある。全部「実現に向けて」になると思うが、表現がそろっていない。例えば、33 ページの施策 02【生涯学習】の書き出しの文末にも、網かけで「の実現」となっている。しかしながら、施策 01 や施策 04 には、「魅力ある地域社会をめざします」や「健やかに育つ社会をめざします」となっており、「実現」という言葉が入っていない。できれば、全部に「実現」という言葉を入れてもらおうと、前向きな姿勢や意欲が感じられていいのではないかと思うため、ご検討いただきたい。

会長

誘導居住面積水準について、何かコメントがあればお願いしたい。

委員

3人になっているのはデータの理由と考えられるため、事務局でお願いしたい。

事務局

この指標については、分科会でいろいろ意見があった。ファミリー世帯を目指すのであれば、「具体的に、ファミリー世帯特定の年代を狙ったような人口がどれくらい増えたかという指標にしてはどうか」というご意見もいただいた。また、単純に「住環境の向上」ということであれば、「一人当たりの居住面積の増加を図ってはどうか」というご指摘をいただいた部分で、事務局で検討させていただいたが、人口増加は住環境だけで打ち出すことができるものではないということで、住環境に関する指標としてはどうかという結論にいたったものである。また、一人当たりの居住面積という部分については、毎年数字を取ることができないということになった。

もう少し説明すると、100㎡と75㎡というのは、国が作った住生活基本計画の中で、戸建て住宅においては一人当たり25㎡×人数、マンションについては20㎡×人数+15で、100㎡と75㎡としている。世帯人数として3人を指すということではなく、居住面積水準として100㎡以上、マンションでは75㎡以上を目指すという意図である。

委員

施策 13【学校教育】について、36 ページにある行政の取組の5つめ「家庭・地域・学校の連携推進」に、「社会教育機関」「社学連携」を入れていただきたい。

委員

指摘に対しての意見がないということは、その方向性で修正するということがよいのかどうか、確認をした方がよいと思う。例えば、私は、施策の順番の話で、委員から、施策04を最初にした方がよいのではという意見があったが、「コミュニティの力を借りながらまちづくりを進めるということがこの計画の大きなテーマになっている」という意味では、コミュニティが1番になっているのにはそれなりの理由があると、個人的には感じている。

個人的に気になる点が3つほどある。19ページで書き加えていただいたところであるが、「人口から見たまちづくりの考え方」のところの網かけ部分は、すんなり読めないこともないが、「高齢化が進むと活力が落ちる」というニュアンスに取られかねない。そうではなくて、成熟社会になっていくのだから、その成熟社会をより良いものにしていくと考えたとき、高齢者の方々は確かに体力的には落ちてきているかもしれないが、知恵や経験がある。その知恵や経験を活かしていただき、それに加えて若年層が持っている活力を交え、よりよいまちにしていくといった観点が、おそらく成熟社会では非常に重要な点ではないかと思う。その辺りをこの4行の中に付け加えていただき、より前向きな書きぶりになればよいと思う。

20ページの最後の4行だが、このまま読んでしまうと西宮市と同じになる。最終的には、都市計画マスタープランで受けていただくことにはなるが、土地利用のありかた、これからの考え方を示すことが非常に重要だと思っている。西宮、芦屋と違う尼崎の特徴は、きちんと製造業等の事業所があるということ。また、これまでの尼崎市の歴史を見ても、工場の労働者として来られた方が定住しており、職住が一体となって発展してきたというのが、尼崎の特徴ではないかと思う。その特徴の延長上で、土地利用もうまく職住を共生させながら発展を目指す、ということをもう少し強調すると、尼崎市らしい土地利用のあり方になってくるのではないかと思う。

75ページの6.行政運営の4行の網かけについて、確かに、ここで職員研修・組織の見直し・制度の話がここには書かれているが、このポジションは前文的であると思う。なので、ここに収められてしまうと、さらっと流れてしまわないだろうか。例えば、(1)と(2)を実現するために、(3)として、職員研修・組織の見直し・制度の見直しが必要なのだというような形で書かれた方が、より強調されるのではないだろうか。

以上3点を検討していただければと思う。

会長

ご指摘の点を検討いただいて、修正するなり、このままいくなり、検討いただきたい。続いて、「2.都市像の検討について」に移りたいと思う。

2.都市像の検討について

会長

都市像については、これまで様々な意見をいただいた。設定するののかも含めて議論する、ということになってきた。まずは、事務局より資料説明をお願いしたいと思う。

事務局

(資料4説明)

会長

「都市像」というのは、この総合計画を一言で表す、象徴的な表現という意味合いで、今回も皆さんに検討いただきたい。今日は、ご自由にご発言いただき、次回の総会に向けて、これを参考に事務局にて整理していただくということにしたいと思う。

委員

例えば、計画名称は、キャッチーな言葉というか、口に出しやすい・目をひきやすい言葉を持ってきたときに、それだけでは中身がわからないため、その下に「みんなが育ち、つながり、活躍するまち」のような副題をつけ、二段構えにする手もあるのではないかと思います。

会長

メインを短くして説明的な副題を、というご提案だった。

委員

「ありたいまち」は、なかなかうまくできていると思うが、一口に言って「どんなまちにしたいのか」ということになると、イメージがわきにくい。そこで、これを集約すると、尼崎の従来の資源から言って、テクノ振興とスポーツのまちづくりがよいと思う。それを目指して、それによって派生する4つのありたいまちが実現すると思う。そういう結びつきはどうか。

委員

都市像というか、端的に表現できるキャッチフレーズを皆さんの総意のもとでまとめるのは難しいと思うが、先ほど、「都市の体質転換」との説明にもあったが、今新たに転換していくという意味で、「新生あまがさき」または「新生あまがさきをめざして」などはどうかと思った。

委員

「ずっと、あまがさき」は引っ越さなくていい感じがして、よいと思った。

委員

「にぎわい・創生・あまがさき」はすごく良かった。今回は何が目玉かということ、「人が育ち、互いに支えあうまち」で、「あるものを大切に、繋がりカバーする」ということだと思う。新しいものを作るというよりも、「にぎわい・創生・あまがさき」を少しアレンジしてはどうか。

委員

「つながり」などを使うと限定されてしまうため、総合的なフレーズということでは、「やっぱり」や「ずっと」がいいのではないかと思います。委員のご発言にもあったが、大切なところ、強調したいところを副題としてみてはどうか。

委員

議題もタイトルも「都市像」となっているが、都市像というのは、一般的に総計の中では、一つの姿ということで目標像として書くが、どちらかというと、総計全体を表現する「キャッチフレーズ」という考え方で議論した方がいいと思う。今回の総計は、一生懸命箱ものをつくってきた以前の総計から、市民協働にチェンジするということであるため、空間イメージではなく、別のものでもいいと思う。例えば、市民懇話会の「だから、あまがすき」でも良いと思う。

委員

キャッチフレーズはよくわからないところはあるが、基本的に、活性化の視点からすると、3つ大事なことがあると思う。先ほどの箱ものを作りすぎたということにも絡んでくると思うが、1つめは「あるもの探し」というニュアンス。2つめは、「変化に機敏に対応していく」という発想。3つめは、松下幸之助の経営理念の話をよくするが、「お客さんの欲しがるものを売るな、喜ぶ物売れ」ということ。つまり、尼崎が提供できる範囲で提供するという「ニーズにどう応えるか、それに合わせて施策を決める」というニュアンスを含むような「喜ぶもの」である。この3つを加えたようなキャッチフレーズができればと思う。

委員

これは計画全体というよりも、「総合計画」という固い文字になっているが、この表紙をどうするかだと思う。インパクトがあって、皆さんに手にとっていただき、「ああなるほど」と思ってもらえるようにする。「やっぱり、あまがさき」「ずっと、あまがさき」などにして、後ろに委員がおっしゃったように繋げていくというのが一番よいのではないかなと思う。尼崎にお住まいの方は、尼崎がすごく好きなので、そこを大事にした方がいいのではないかなと思う。

委員

今の意見に賛成である。都市に住むということは、その都市に愛着があり、その都市のありように誇りをもつことなので、非常に大事なことだと思う。「ずっと」ということには、流出や流入が関係するという意見があるかと思うが、「いいよ、あまがさき」くらいがいいと思う。

委員

私は、尼崎市で、自立支援協議会の会長をしている。耳当たりが良くて、みんなが納得できて、つかみがよいものを考えたいということになった。協議会で、地域資源をリストアップして社会資源マップを作った。3月に発行されるが、社会資源マップのタイトルをつけるのにすごく苦労した。漢字を並べると行政用語になってしまい、何が書いてあるかわからず、人は読まなくなってしまうといった尼崎が置かれる状況を議論したとき、資料に書かれている言葉が全部出た。「お金もないし、仕事もない、お先真っ暗だね、だけど希望はある。人も事業者も中小企業の雇い主の方も行政職員もみんなに希望は欲しいよね」という話になった。それぞれがキラキラ輝きたいという気持ちを込めて、「きらっとマップ」とした。それから、「物々しい漢字を付けるのをやめよう」ということになり、就労支援促進部会ではなく「あまの仕事部会」、子どもたち児童の問題や療育を要する障害児の問題に

関しては「あまっこ専門部会」、暮らし全般に関しては「あまの暮らし部会」というように、専門部会の名前をそれぞれ変えた。いかにキャッチフレーズを決めるかというのは、総計審のあり方を示すものを模索するよりは、こういうものは直感型の方が人の魂に響くため、直感で決めた方がいいと思う。「だいすき、あまがさき」というようなものでよいと思う。

委員

「ありたいまち4つが実現したら、市民の方がどう思うか」という所から考えると、施策16・17にもあるが、私もずっと尼崎で、良いところも、悪いところも知っているし、愛着がある。愛着はあるが、この4つのまちが実現したら、市民は誇りをもつのではないかな。そういう誇りを感じる言葉があればいいのではないかなと思う。

委員

委員より、今のキャッチフレーズでいいのではないかな、という意見があった。総合計画を策定すると、どうしても看板をすげ替えないといけないという発想になるが、私はよいものであれば継続してもいいのではないかなと思う。ただ、「にぎわい」という時代ではないと思うため、私なりに考えてみたが、ネットワーク社会になっていくこと、コミュニティの繋がりということでいうと、「つながり・創生・あまがさき」もあるのかなという感じがした。市民懇話会のキャッチフレーズも良いと思うので、そのまま使ってもいいと思う。また、委員のお話を聞いていて、これはキャッチフレーズになるかわからないが、「あなたが喜ぶ顔が見たい。この10年間これで頑張ろうよ」という掛け声みたいなキャッチフレーズもいいのではないかなと思う。

委員

市民は「尼崎」というより、愛着を込めて「あま」と呼んでいる。だから、キャッチフレーズで使うのであれば、尼崎ではなく「あま」がいいと思う。ただし、それだけでは説明ができないため、副題は必要だと思う。

一昨年、尼崎を舞台にした演劇をつくったが、「あまに唄えば」という作品にした。最初は「尼崎」にしようという話だったが、取材で地元の人たちの話を聞いてみると、やっぱり「あま」がいいと思った。

委員

パブリックコメントを実施するのであれば、市民からキャッチフレーズを集めてもいいのではないかな。この計画をみて、何か答えるというのは難しいが、「ぜひ、キャッチフレーズを考えてください」ということであれば、それくらいなら出せるかなと思う。皆さんの意見を聞いていて、ずっと「ありたいまち、ありたいまち、ありたいまち」を考えていると、「蟻」と「鯛」が浮かんでくる。そこのイラストにならないかなと思った。蟻は働き者、鯛はおめでたい、尼崎は働き者も多いし、おめでたい人も多いし、おせっかいも多いし、そういうのが尼の特徴だ、というものがあればいいかなと思った。

会長

委員のご提案としては、パブリックコメントにそういうご提案もいただけるようにすればどうか、ということだと思う。

委員

なかなか難しい問題である。基本計画の時も議論したが、尼崎の場合はなかなか定まらない。阪神尼崎にアマゴツタがあるが、要するに、ごった煮というか、白井市長の時は、「マーブル色」ときれいな表現であったが、お好み焼きのようなまちであると思う。ここに出ているのも、いろいろな状況が1つでなかなか言い表せないまちという印象が昔からある。だから、職住都市、職場と住宅が一緒にあるまち。これも、西宮の文教住宅都市、三田や川西は農業と住宅、そういう棲み分けを意識して出てきた。今の議論を聞いてよくわからないのが、都市像なのか、キャッチフレーズなのかということである。最初の議論と変わってきたのが、都市像なのか、それとも、この計画そのものの目指すもの、あるいは、性格を表すものにするのか、これによって、かなり違ってくる。だから、その辺を整理してもらいたい。

会長

この辺りで共通して認識しておいた方がよいと思うが、委員から、「都市像と言うよりは、計画を象徴する言葉」という話があったが、私もそういうことではないかと思う。それが都市の姿を現す部分もある。いかがか。

委員

何のために総合計画を策定するのかというと、根本的な話をしてしまえば、みんなが幸せになるために作るのである。そうすると、我々が目指しているものは、「みんなで幸せになるか」「みんなが幸せになるか」のどちらを目指しているのかを言った方がいいのではないか。「みんなでやりましょう」ということを言っている訳だから、「みんなで幸せあまがすき」でもいいし、「みんなで幸せあまがさき」でもいいので、「幸せになろうよ」ということを、従来は「豊かになろう」とか「綺麗になろう」を目指してきたが、本来の計画の根源に立ち戻った、つまり、自分たちで幸せになっていくための手掛かりとしての総合計画の視点に立ちもどった方がいいのではないかと、私はこれまでの議論を振り返ってみて思った。

会長

経済学者は、「豊かになることが幸せになる」と言っていたが、どうやらそれは違うらしいということが最近言われている。

委員

キャッチフレーズというと難しいが、総合計画の表紙として、市民の方にも見てもらえるようなイメージ、総合計画の中でも行政だけでなく市民の立場で、企業の立場で考えて行こうという部分がたくさん載っている。みんなで考えていかなければいけないというのが、この総合計画の大きな目玉であると思うため、その辺も、市民も一緒に考えていくということをアピールできるものもいい。委員の「蟻」と「鯛」で「ありがたい」というのは、キャラクターとしても私は面白いと思った。「総合計画」というよりも、「みんなで考えて行く材料なんだよ」というイメージの表紙ということで考えると、「ありがたいあまの考え方」とか「ありがたいあまの処方箋」というようなのはどうかなと思った。

会長

皆さんにいろいろアイデアを出していただいた。事務局にて整理していただきたいと思う。パブリックコメントで市民の皆さんから提案していただいている点についてはどうか。

事務局

その点であるが、「計画」を表す言葉ということ考えた時に、ある程度、この計画の趣旨をご理解いただいた上で検討いただく方が望ましいと考えるため、今日のご議論を踏まえた上で、少し事務局で整理させていただいた方がいいのかなと思っている。尼のイメージだけでいくと、かえって混乱してしまう部分もあると思う。

会長

パブリックコメントでは計画案全体が出ていくわけだから、読んでいただいて、その上で市民の方に意見をいただくこともよいと思うが、その場合は、審議会の皆さんからご意見いただいたものについて後ろに付けておいて、さらにこれについてもコメントをいただく、とすると効率的ではないか。これに関しては事務局で今日の議論を踏まえて考えていただくということにしたいと思う。

事務局

ありがとうございました。どのようにまとめていくかについては検討させていただきたいと思う。

時間の関係で、一つ一つの意見への対応、また、庁内の調整を踏まえた整理を申し上げることができなかったが、このあたりはご満足いただける結果かどうかはわからないが、一定、部会審議を経て、庁内調整を経た部分でもあるため、いずれにしてもいただいたご意見に対する整理はさせていただきたいと思う。それ以外にも、本日いただいた意見については、整理し修正作業を進めていきたいと思う。

3. その他

事務局

その他について、資料 をご覧いただきたい。2月17日から3月9日までパブリックコメントをしたいと考えている。パブリックコメントや本日の議論をふまえて修正し、3月末か4月初めに開催予定の次回総会において、答申案を確認いただき、できれば4月中に答申の最終案を確認いただきたいと思う。日程については、机上にある日程調整用紙にて候補日を挙げていただきたい。本日ご予約が不明の場合は、後日、事務局までご連絡いただきたい。

会長

答申までに、総会はあと2回しかなく、限られた時間の中での作業になるため、事務局においてパブリックコメントや特別委員会での意見を踏まえて、答申案の作成を進めていきたいと思う。

以上